

# 2021年（令和3年）度 事業計画書



学校法人 京都外国語大学

# 目 次

はじめに	1
<b>I. 学校法人京都外国語大学事業計画</b>	<b>2</b>
1. 基本方針	
2. 財政基本方針	
3. 学園環境整備重点取組	
<b>II. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画</b>	<b>4</b>
1. ミッション	
2. 目的	
3. 学長方針	
4. 全体の重点目標と重点事業計画	
5. 各学部の事業目標・計画	
6. 各部署の事業目標・計画	
<b>III. 京都外大西高等学校事業計画</b>	<b>13</b>
1. 高校のビジョン	
2. 方針	
3. 重点取組	
<b>IV. 京都外国語専門学校事業計画</b>	<b>16</b>
1. 専門学校のビジョン	
2. 方針	
3. 重点取組	
<b>(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的</b>	
.....	<b>17</b>

## はじめに

周知のように、2021年度以降の私立学校、特に私立大学・短期大学を取り巻く情勢は、ますます厳しい局面を迎えると予測されている。18歳人口の本格的な減少による大学淘汰の本格化など、大学間の競争が激しくなる中、どの私立大学・短期大学でも、自律的なガバナンスを確保し、併せて経営を強化し、より強固な経営基盤に支えられ時代の変化に対応した大学づくりを進めているところである。また、各私立高等学校、専門学校においても、少子化や景気動向、国の政策等の影響を考慮しつつ、生徒・学生の確保などにも懸命な対策が執られている。

本学園は、2018年度には大学に国際貢献学部を開設、先進的な教育プログラムへの取組を本格化させ、2020年4月には外国語学部ロシア語学科の開設をするなど、時代の変化に対応した学園づくりを行ってきたところである。

各設置学校においては、国の私学関係予算などにも留意しながら、運営の根幹につながる入学志願者の安定的確保や財務基盤の維持等に最大限の力を注いで、教学部門・経営部門の運営にあたることとしている。



2021年度における学校法人京都外国語大学の事業計画について、次ページ以降に、

- I 「学校法人京都外国語大学事業計画」に続き、4つの設置学校について、
- II 「京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画」、
- III 「京都外大西高等学校事業計画」、
- IV 「京都外国語専門学校事業計画」の順で、その概要を簡潔に説明する。

【注】以下、適宜、京都外国語大学を「大学」、京都外国語短期大学を「短期大学」、両者に大学院を加えて「本学」、京都外大西高等学校を「高等学校」、京都外国語専門学校を「専門学校」などと表記している場合がある。



## I. 学校法人京都外国語大学事業計画

### 1. 基本方針

本学園の将来構想として、安心・安全の学園づくりのため、学園の主要施設の整備を最重要課題とし、これを中核に据えた学園100年プラン基本構想を2020年3月に策定した。

このプランを基に、今後20年間の中期計画として「学園整備マスタープラン」を作成、当初10年間の重要課題を中期目標として学園の総力を挙げて実行することとしている。

### 2. 財政基本方針

- ・ 学園の持続的な成長のための健全な財務体質堅持に向けた重点評価指標(KPI)の設定
- ・ 学園100年プラン基本構想に基づく中期財務計画の策定と年度予算計画との連動

### 3. 学園環境整備 重点取組

#### (1) 京都外大西高等学校校舎・体育館耐震整備計画事業の推進

現高校校舎及び体育館は旧建築基準法の耐震基準で建築されており、「安心・安全の学園作り」実現のためには、早期に耐震化を進める必要がある。

新校舎については、生徒が育つにふさわしい環境、高大連携を進めるうえで必要な環境等を備えたものとし、2023年度中の竣工を予定している。(詳細はⅢ.京都外大西高等学校事業計画に記載)

また、活発な募金募集活動を行うため、募金事業推進体制の整備や同窓会組織との協力などを行う予定である。

#### (2) SDGsの推進

SDGs（持続可能な開発のために国連が定める国際目標）については、「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」など、教育活動と密接に関わっている目標も設定されている。本学では、目標の達成に貢献する取組の実施やその取組を通じたブランディング強化について、各部門が緊密な連携を図りながら包括的かつ効果的に実施することとしている。

#### (3) 人材育成に係る研修等制度の充実

2016年度に導入した教職員の人事評価制度では、評価の実施と同時に各自のキャリアを考えるキャリア申告・キャリア面談を組み入れており、個々の教職



員の能力向上の機会として活用し、人材育成の強化を図っている。その他、SD（スタッフ・ディベロップメント）推進に係る基本方針及び年度計画に基づき、管理職対象のマネジメントに係る研修、学園の将来を支える若手・中堅教職員対象の研修など、各教職員のキャリアパスを見すえながら、職種・職位ごとの役割・特性を踏まえ組織的に研修を実施する。

また、教職員の自主的なスキルアップ支援のために、自己啓発活動への助成及び日本私立学校振興・共済事業団、日本私立大学協会、大学コンソーシアム京都など大学関連団体等が実施する研修会や学外のSDプログラムのへの参加機会を引き続き設ける。

そのほか、多様化が進む社会において、教職員対象にLGBTQへの知識・理解を深めるための研修を行うなど、社会環境変化へ対応できる人材の育成に努める。



## Ⅱ. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画

### 1. ミッション

大学・短期大学の建学の精神は「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」である。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、本学は外国語及び国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」で、本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。

この教育理念を達成するため、

- ① 確かな日本語力と実践的な外国語運用力
- ② 社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び外国の文化の理解に基づく多文化共生実現力

の3つの力を備えた人材を育成する。



### 2. 目的

#### (1) 京都外国語大学

外国語学部は、専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成する。

国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成する。

#### (2) 京都外国語大学大学院

学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、文化の進展に寄与する。

#### (3) 京都外国語短期大学

文化の一起因ともいえるべき英語を教授研究し、かつそれを根底とする専門職業に重きを置く大学教育と国際活動に必要な教養を施し、国家社会に有用なる人物を育成する。

これらの目的を達成するため、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の3つのポリシーを定め、教育研究を行っている。3つのポリシー及び各学科等の目的については、末尾17頁以降参照。



### 3. 学長方針

#### Leave No Student Behind（学生を一人たりとも置き去りにしない）

第 2 期 5 カ年計画の目標にある社会的信用を確実に持続できる大学づくりは、コロナ禍にあっても変わることはありません。このような時こそ、「小規模大学」や「面倒見の良い大学」といった本学の特性をどのように発揮していくかを考えて行動することが大切です。2021 年度は、コロナ禍によってキャンパスを十分に開放できず遠隔授業を余儀なくされたことから生じた学修・学生生活での問題の解決に全力で取り組んでいきます。ウィズコロナからアフターコロナに向けて、「学生を一人たりとも置き去りにしない」という方針で教育を展開します。私たちが、暖かい血の通った教育を実践することで、学生と教職員との絆を一層強固なものにするとともに、学生が再び安心してキャンパスライフを送れるようにします。

### 4. 全体の重点目標と重点事業計画

重点目標	重点事業計画
<b>&lt;A 学長方針に対応したミッション&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学コミュニティのメンバーとして、学生を一人たりとも置き去りにしない。</li> <li>・学生がコロナ禍の経験を将来に活かせるよう、前向きに大学生活を送れるようにする。</li> <li>・ピンチをチャンスにすることで、将来の大学の発展につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業と遠隔授業の融合による教育の質向上。</li> <li>・外国語教育におけるピア・サポートの活用など、授業内外での教育方法の工夫。</li> <li>・外国人留学生への支援強化。</li> <li>・アフターコロナに向けて幅広い学生支援を行い、本学の教育姿勢を学内外へアピール。</li> <li>・コロナと 18 歳人口急減のダブル危機を回避するための対策。</li> </ul>
<b>&lt;B 第 2 期 5 カ年計画の重要政策&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年度の外国語学部・国際貢献学部・短期大学のカリキュラム改定に向けての準備を進める。また、大学院の再構築についての検討を進める。</li> <li>・内部質保証システムを軌道に乗せる。</li> <li>・事業計画を軸として実行力のある大学運営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年度の外国語学部・国際貢献学部・短期大学のカリキュラム改定に向けての検討。また、大学院の再構築に向けての検討。</li> <li>・内部質保証システムの運用を開始し、全学的な自己点検・評価を実施。</li> <li>・事業計画を軸とした大学運営を本格的に実施。</li> </ul>
<b>&lt;C 自己点検・評価の結果 全学的課題&gt;</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動や産官学連携の推進体制について段階的に検討する。</li> <li>・認証評価における課題を 2022 年度末までにすべて改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動や産官学連携についての課題整理と業務分担の検証。</li> <li>・認証評価の課題について、主担当となる部署が改善活動を推進。</li> </ul>



## 5.各学部等の事業目標・計画

### （1）外国語学部

目標：外国語能力の向上を図るための客観的評価基準、評価制度、授業形態、内部質保証を構築する。

計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞

- ・外国語能力の可視化について客観的評価基準、評価制度の確立に向けた取組。
- ・通常授業形態に遠隔授業を組み合わせた新たな授業組織の構築。
- ・遠隔授業の有効的な授業形態の可能性を探る。
- ・外国人留学生と日本人学生の交流促進、支援体制の構築、発展。

＜B 第2期5カ年計画の重要政策＞

- ・内部質保証に対応した外国語部のカリキュラム改定を見据えた取り組み。
- ＜学部独自の計画＞
- ・日本大学英語模擬国連大会（JUEMUN）を開催。

### （2）国際貢献学部

目標：コロナ禍の教訓を生かしながら安定した教学体制の再構築を目指す。完成年度を迎えて就職・進路支援を強化する。

計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞

- ・対面授業と遠隔授業の融合による教育の向上。
- ・ピア・サポート等を活用した外国人留学生への日本語学習支援。
- ・東南アジアにおける観光学のハブたる地位の確立。

＜B 第2期5カ年計画の重要政策＞

- ・内部質保証に対応した国際貢献学部のカリキュラム改定を目した取り組み。
- ＜学部独自の計画＞
- ・キャリアセンターの支援を受けて就職などの進路支援を実施。

### （3）外国語学研究科

目標：グローバル・シティズンシップ教育に基づく大学院教育課程の再編および研究指導體制を構築する。

計画：＜B 第2期5カ年計画の重要政策＞

- ・大学院改組に向けての検討。

＜C 自己点検・評価の結果 全学的課題＞

- ・認証評価における研究科の諸課題について改善。

＜研究科独自の計画＞





- ・志願者数の維持および戦略的広報。
- ・海外の大学との交流促進。
- ・学部研究生の充実。

#### （４）短期大学キャリア英語科

目標：教育環境の整備と本学の教育効果を学内外へアピールする。

計画：＜B 第２期５カ年計画の重要政策＞

- ・カリキュラム・ポリシー改定と教育環境の整備。

＜５カ年計画アクションプラン＞

- ・進学が多様化と充実。

## 6.各部署の事業目標・計画

### （１）総合企画室

目標：認証評価に向けて一つひとつの課題を着実に解決していく。

計画：＜B 第２期５カ年計画の重要政策＞

- ・全学的な自己点検・評価を要とした内部質保証システムの構築と運用。
- ・５カ年計画と事業計画(単年度)とを結びつけた実行力のある大学運営の実施。
- ・内部質保証、自己点検・評価、５カ年計画、事業計画についての情報公開を推進。
- ・教員のワークライフバランスを高めるために主要な課題を整理。

＜C 自己点検・評価の結果 全学的課題＞

- ・認証評価の全学的な課題を整理し、着実な改善に向けて関係部署等と連携。

＜部署独自の計画＞

- ・外部資金獲得強化に向けての基盤整備。第一段階として一般補助の増減率を改善。
- ・IR機能の強化。

### （２）広報室

目標：ブランド力および学生募集を中心に広報力の向上を図る。

計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞

- ・国際貢献学部とロシア語学科の募集力強化の施策継続。
- ・オンラインによる本学の教育力や幅広い学生支援の発信強化。

＜５カ年計画アクションプラン＞

- ・現在の志願者数を確保し、競合校との歩留率を向上。
- ・新しい京都外大ブランドを構築、各種調査の「教育力」、「国際性」で上位を獲得。



### （3）総務部

目標：重点目標の達成に向けて、三現主義を実践し、各部署をまとめ、部署間の連携を主導する。

計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞

- ・ウィズコロナ時代にマッチした衛生環境と ICT 環境を積極的に構築する。

＜B 第2期5カ年計画の重要政策＞

- ・2024年度カリキュラム改定への取り組みサポート。
- ・教学系新システムの導入、過去の学籍簿等のデータ化の促進。

＜C 自己点検・評価の結果 全学的課題＞

- ・学生の課外活動や産官学連携含め事務組織の課題整理と業務の効率化。

＜部署独自の計画＞

- ・学生等の安全を早急に確保するべく、早期の耐震化完了を見すえた施設整備計画「学園整備マスタープラン」に基づき、2021年度に計画された施設・設備の更新を行う。

### （4）人権教育啓発室

目標：すべての学生や教職員のためのハラスメントのない快適な環境の実現

計画：＜部署独自の計画＞

- ・ハラスメント相談体制の充実
- ・各種人権啓発行事の開催

### （5）教務部

目標：アフターコロナに向けての教育体制の構築および学部・短期大学の教育課程を再編する。

計画：＜B 第2期5カ年計画の重要政策＞

- ・2024年度に向けて大学・短期大学の教育課程再編の原案を準備。
- ・新カリキュラムにおけるアセスメント・ポリシーを整備。
- ・外国語科目においてルーブリック評価をできるだけ多くの学科で導入。

＜C 自己点検・評価の結果 全学的課題＞

- ・認証評価における教務部の次の諸課題について改善。

- ① 教育目標の三つのポリシーへの反映の検証。
- ② 教職協働の学修支援の方針・計画の策定。
- ③ 学修支援に関する学生の意見・要望の把握と活用。
- ④ カリキュラムツリーまたはマップの作成。



- ⑤ アクティブ・ラーニングなどの授業内容・方法の推進。
- ⑥ ディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果の明示と自己点検・評価の実施。
- ⑦ 学修成果の点検・評価の結果分析と教育改善。
- ⑧ 大学院の教育環境に関する満足度調査の実施。

#### （6）学生部

目標：学生が有意義な学生生活を送るために学生部がなすべき事を検証する。

計画：＜C 自己点検・評価の結果 全学的課題＞

- ・退学、除籍、休学の理由をデータ化し、関連部署に提言し改善策を検討。
- ・学費の納入方式について検討。
- ・可能な限り学生の生の声を収集し、関連部署と連携して施策に反映。

＜5カ年計画アクションプラン＞

- ・課外活動を中心とした学生生活全般についての課題整理とサポート強化。

#### （7）健康サポートセンター

目標：学生が有意義な学生生活を送るためのサポート体制の充実

計画：＜部署独自の計画＞

- ・多様な障がいのある学生へのサポート体制の課題整理と充実。
- ・学生の健康・安全管理の徹底

#### （8）国際部

目標：コロナ禍において相互のリアルな留学に代わる施策を検討し、学生の国際感覚を醸成する。

計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞

- ・留学生受け入れ態勢の一元化への検討。

＜5カ年計画アクションプラン＞

- ・海外在住の一般・学生に向けた短期日本語オンラインプログラムの発信。
- ・海外協定大学への短期・長期リアル留学に代わるオンライン留学の整備。
- ・ダブルディグリーについてマレーシア科学大学と協議。

＜部署独自の計画＞

- ・アフターコロナを見据えた留学支援業務の整備。

#### （9）キャリアセンター

目標：ウィズコロナ・アフターコロナを見据えて就職支援体制を再構築する。

計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞



- ・海外インターンシップ・プログラムの一部オンライン化。  
＜C 自己点検・評価の結果 全学的課題＞
- ・日本航空（株）との包括連携を強固なものとする。
- ・企業のニーズ及び卒業生の評価に関するアンケート調査の検討。  
＜5カ年計画アクションプラン＞
- ・低年次層の社会人基礎力向上に向け、大学コンソーシアムのインターンシップ・プログラムへの参加促進。
- ・PROGテストの結果を分析し、本学学生の課題克服プログラムを開発。
- ・京都、関西における親密企業の開拓促進。
- ・低年次からのキャリア意識の醸成のため学科との連携をさらに強化。

#### (10) 入試センター

目標：コロナ禍への対応を契機に、各種入試の制度と実施方法に変更を加え、前年度並みの志願者数を確保し、各入試を確実に実施する。

計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞

- ・本学の教育に理解を示す高校との関係を強化。  
＜C 自己点検・評価の結果 全学的課題＞
- ・アドミッション・ポリシーの体現を目指した近年の施策の実績についての検証。  
＜5カ年計画アクションプラン＞
- ・西高の教員、生徒への本学情報の提供を強化。
- ・入試制度改革の継続。  
＜部署独自の計画＞
- ・外国人留学生の募集強化活動の継続。

#### (11) コミュニティエンゲージメントセンター

目標：コミュニティエンゲージメント・プログラム3年目の安全かつ学生の満足度向上に向けた運営を行う。

計画：＜5カ年計画アクションプラン＞

- ・コミュニティエンゲージメント・プログラムの拡充と安全な運営。
- ・協定締結先の自治体及び各種団体との円滑な関係の維持、拡大。

#### (12) ランゲージセンター

目標：多様な学生の個別性を捉え、語学学習を基盤にした学びの適切な支援を行うことと地域へのエンゲージメントの基盤を整備する。



計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞

- ・学科との連携によるピア・サポート教育の充実と実践。
- ・半年間の入学前日本語予備教育実施のための調査・準備。
- ・ランゲージセンターの各種取組のハイブリッド化。

＜5カ年計画アクションプラン＞

- ・ピア・コミュニティ構築による多文化共生力の涵養。

＜部署独自の計画＞

- ・初修外国語を専攻とする学生のピア・サポート体制構築のための調査・準備。
- ・日本語能力テストの充実のための調査・準備。

(13) 図書館

目標：図書館業務の三要素（①資料の収集、②資料の整理・蓄積、③資料の提供）を円滑に推進する。

計画：＜A 学長方針に対応したミッション＞

- ・オンライン等を活用した利用者サービスの充実と向上。

＜部署独自の計画＞

- ・ホームページの英語対応等をリニューアル。
- ・書庫の狭隘化への対応。
- ・稀覯書資料のデジタル化の推進や主題別書誌データベースの作成。
- ・ロシア語学科開設記念展示会、図書館フォーラムの開催。
- ・貸出、返却システムのチップ式への移行（複数年）。

(14) 国際言語平和研究所

目標：教員研究向上を目指し各教員に合わせたサポートを行う。

計画：＜C 自己点検・評価の結果 全学的課題＞

- ・研究活動のための外部資金獲得の工夫。
- ・研究環境に関する教員、大学生、大学院生対象の満足度調査を実施。

＜5カ年計画アクションプラン＞

- ・有効性のあるサバティカル制度の実現。
- ・科研費等外部資金における国際共同研究資金獲得の促進。
- ・国際貢献やコミュニティエンゲージメントを中心とした学内研究会の発足。

(15) 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所

目標：ラテンアメリカ研究所を学術研究機関として位置付け、同地域に関する学術研究の深化と研究成果の発信の充実を図り、研究活動をさらに活性化させる。



計画：＜部署独自の計画＞

- ・ 定期的な IELAK 研究会の開催、研究講座を学生にも紹介、公開。
- ・ 教養講座をはじめとするラテンアメリカに係る講演会、研究会、セミナーの開催。
- ・ 研究成果として、『いえらっく』、『紀要』、『IELAK Publication Series』を発行。
- ・ 研究員による学術研究資金を活用した研究活動の促進。
- ・ 京都ラテンアメリカ文化協会との研究成果を学生、一般市民に公開。



## Ⅲ. 京都外大西高等学校事業計画

### 1. 高校のビジョン

「不撓不屈」の精神に則った総合的人間育成

本校の建学の精神「不撓不屈」は、本学園創立者の出身地、会津若松の藩校「日新館」の教育において、「不撓不屈」の精神をもって断固として困難に立ち向かう「ならぬことはならぬ」の教えが貫かれていたことに由来しており、「なし得ること、なさねばならぬことはたとえどのような困難をとこなう場合であっても、不撓不屈の精神をもって断固として貫徹せよ」との教えである。

「不撓不屈」の精神によって培われたたくましさ。すべての礎となる基礎・基本を徹底的に養っていく持続力。あらゆる問題に挑み、優れた発想と柔軟な思考で解決する能力。この3つの「未来を拓く力」を身につけた生徒の育成を目的とする。

### 2. 方針

京都外国語大学の併設校としての特色を一層発揮し、京都外国語大学に生徒を送り出す使命と自負を持って「グローバル化推進」「ICT化導入」を優先して教育を行う。大学が求める学力育成にあたることはもちろん、生徒自身の大学での学びの自覚及び志向する志望学部のための高大連携を深め、連携事業を展開し、連携を密に、双方により実効性のあるものとしていく。また、京都外国語大学希望生徒だけでなく、他大学志望生徒の学力向上を図るためにも、より一層活発な教職員間の議論・共有を行い、教育・生徒指導力の向上を図ることで、教育の質の向上を目指す。

### 3. 重点取組

#### （1）京都外大西高等学校校舎・体育館耐震整備計画事業の推進

##### ア 趣旨

高等学校が大事にすべきものは何か、これからの生徒が育っていく空間としてどのようなものがふさわしいのか検討を行い、以下の①②を第一に使いやすさや生活空間としての快適さも十分に考慮し、生徒たちが学校で過ごす時間を楽しいと思えば笑顔があふれ、何十年も使い続けることが出来る校舎等とした。

- ①生徒及び教職員にとって自然災害時や新型コロナウイルス等の感染症拡大予防に対応できる教室の広さや換気設備を有する安心・安全な設備・建物であること。
- ②2022年度入学生からの教育課程改定に伴い、生徒達がパソコン・タブレット等を使用したICT化授業に対応できるWi-Fi環境やプロジェクター等の整備がされていること。





イ 建築等時期

着工 2022年度 竣工 2023年度

ウ 本事業に係る募金募集活動については、本校教職員らが中心となり法人部門とも連携しながら、募金活動の推進、本校の同窓会及び後援会への協力を要請することになっている。

(2) 教育に関すること

ア グローバル化の推進

2022年度の学習指導要領改定に伴い、コース再編を実施し、グローバルスタディ化を推進した教育課程改定を実施する。また、京都外国語大学との連携強化の一環として、外国語教育の充実を図るため、第2外国語授業の再開をめざす。

イ ICT化推進について

2022年度入学生からの学習指導要領改定に伴い、授業のICT化に対応できる環境整備を整備するとともに、授業内容の見直し・研究を推進する。

なお、ICT化は本来の授業形態に拘らず、パソコン・タブレット・プロジェクター等を使用した授業を中心とし、自然災害や感染症による長期休校の状況に備えて、オンライン授業の充実だけでなく、土日祝日や長期休暇中の進学対策や学力低下生徒への学力向上を図ることにもつなげる。

また、地方公共団体や海外の姉妹・交流校並びに模擬国連参加校とのインターネットによるネットワーク構成やイントラネット等の研究を進め、本校が中心となって国内や世界に発信できる力を育成する。

(3) 学校運営に関すること

ア 教科科目・校務・部活動の適正化

(ア) 教科科目については、コースの再編も含めての教育課程の見直しを行う。

(イ) 校務については、業務のIT化推進及び担当教員の見直しを行う。

(ウ) 強化クラブと一般クラブの棲み分けを実施。成果を毎年度確認し、人員配置の見直しを図る。

イ 生徒募集について

中学校との連携を深め、質の高い生徒の確保につなげる。また、ITを利用した広報活動を推進し、担当者だけでなく、全教職員で募集対策を進める。





ウ 同窓会について

2019年度に同窓会総会を実施し、役員・会則等の改定を行った。今後も引き続き活発な活動や情報発信を行い、同窓生同士の情報交換やネットワーク構築、母校や後輩の発展への協力を仰ぐ。



## IV. 京都外国語専門学校事業計画

### 1. 専門学校のビジョン

「アジアを学ぶ」をテーマに誕生した本校は、京都外国語大学のグループ校として、建学の精神「言語を通して世界の平和を」を掲げ、実践的で堪能な外国語能力の養成を図り、その能力を基盤として、多様な社会の要請に即応し得る専門的スキルを修得させるとともに、常に人格の陶冶に努め、広く海外文化に通じ、幅広い国際的感覚と国際社会人としての豊かな人間性を身につけた、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。

### 2. 方針

- (1) 京都外国語大学が目指す多言語教育の一翼を担うために、アジア圏の言語（中国語、韓国・朝鮮語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語）を中心とした学びの場の提供。
- (2) 高・大・専（京都外国語大学、京都外大西高等学校、京都外国語専門学校）の連携の下に、複数言語の修得が目指せる教育システムの構築。
- (3) ネイティブ教員を中心に、「話す」「書く」のいわゆる実践力の能力開発を行い、京都外国語大学へ編入させることで、大学の質の向上に貢献する。

### 3. 重点取組

“withコロナ”“afterコロナ”に向けての取り組みとして、遠隔授業と対面授業の特徴を生かしながら、より効率的なカリキュラムで授業を進める。

そのために、

1. ICT化に向けた環境整備
2. 1に基づき、ICT教育の導入検討
3. 2に頼らずに、Face-to-faceの授業の充実
4. 語学力を身に付けた学生を育成する。
5. 進路先（就職・編入）決定率100%を目指す。

なお、2021年度の重点的に取り組む事業としては、

1. 学生管理システム（KICS）の更新
2. 学費管理システム（GAKUEN）の整備
3. 学園施設整備として、

- ① 受変電設備保守修繕工事、
- ② 給水加圧ポンプの更新、
- ③ Ⅲ号棟屋根・外壁保守塗装工事

などを予定している。



## 3つのポリシー

<b>京都外国語大学</b>
<b>外国語学部</b>
<b>ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）</b>
<p>外国語学部は専攻する外国語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。</p> <p>① 構想するために必要な力          私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。</p> <p>② 実践するために必要な力          自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。</p> <p>③ 協働するために必要な力          立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者ととも実現していく（多文化共生力）ことができる。</p>
<b>カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）</b>
<p>外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。</p> <p>【教育内容】</p> <p>① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。</p> <p>② 専攻語教育の必修科目において専攻言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置する。定期的に学内統一試験や外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。</p> <p>③ 専攻語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。</p> <p>④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。</p> <p>⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。</p> <p>【教育方法】</p> <p>① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。</p> <p>② 必修科目における外国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。</p>



- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。
- 【学習成果】
- ① 語学力の育成  
大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。
- ② 専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力  
専攻する言語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。
- ③ 世界が抱える諸問題の理解  
専攻言語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

本学部では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績  
② 語学の到達度を測る資格試験や統一試験におけるスコア  
③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は  
[https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv\\_mission.html](https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html)  
に掲載。

**アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）**

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会で十分に通用する実践的な外国語運用力を身につけるとともに、専攻語圏及び自国の文化・歴史・政治・経済などに関する専門知識、そして、外国語運用力を活かすための幅広い知識と豊かな教養を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人  
② 実践的な外国語運用力の修得に意欲を持っている人  
③ 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人  
④ 外国語を学ぶ上での適性と基礎学力を有する人

**京都外国語大学**

**国際貢献学部**

**ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）**

国際貢献学部は、高度な外国語運用力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成することを目的としている。

その実現のために、世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことができる人材を養成することを教育目標としている。

**カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）**



国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、専門科目に加えて必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に大別している。  
各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は  
[https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv\\_ge\\_mission.html](https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_ge_mission.html)  
に掲載。

### アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

国際社会に貢献することに強い意欲を持つ人材を求める。

グローバルスタディーズ学科

【求める学生像】

- ① 英語をはじめとする外国語の高い能力を有し、さらにその能力の向上をめざす人
- ② 何事も主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人
- ③ 外国語のコミュニケーション能力を駆使して、積極的に国際理解を推進しようとする人
- ④ 国際社会のさまざまな諸問題に興味や関心を持ち、国際協力に従事したいと考えている人
- ⑤ 国際ビジネスの専門的知識を身につけて、国際社会で活躍したいと考えている人

グローバル観光学科

【求める人材像】

- ① 何事にも主体的に、積極的に取り組む意思のある人
- ② 自国を含め諸外国の文化に興味や関心を持っている人
- ③ 観光を通して異文化や自文化を理解するとともに、実践的な外国語のコミュニケーション能力を養うことによって、国内外のグローバルな環境で活躍したい人
- ④ 観光を通して地域の活性化に貢献したい人
- ⑤ 国際観光文化都市・京都をはじめ国内外の観光資源に興味を持ち、観光政策を立案・実践したい人

## 京都外国語大学

### 大学院外国語研究科

### ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

外国語学研究科は、外国語学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、言語を通して世界の平和に貢献することを目的としている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

外国語学研究科は、言語文化と言語教育の専門分野に関する研究コース（領域）を有することを活かし、専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、その基礎となる豊かな学識を修得させることを目的としている。

博士前期課程は、言語コミュニケーションに重点を置いた言語と文化の学際的、総合的研究、並びにその応用としての言語教育・学習方法論の研究を行うことをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

博士後期課程は、世界の諸地域における人間の営みの中核をなす文化を、言語を通して根源的に解明できる人材を育成すること、また多分野に通じた創造性ある言語教育者を育成することをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

**アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）**

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、新しい知の体系の創造と新しい時代を担うことのできる幅広い視野と柔軟な思考を備え、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

## 【求める学生像】

## 博士前期課程

- ① グローバル化する国際社会に対応できる高度な専門職をめざす人
- ② 教育機関で専門的な指導ができる教育者をめざす人
- ③ 言語文化・言語教育の学術研究分野で専門的研究者をめざす人

## 博士後期課程

- ① 国際的視点に立った研究を行い、その成果を人類に広く還元し、社会に大きく貢献する研究者をめざす人
- ② 従来の理論や常識を越える独自の研究をめざす人

**京都外国語短期大学****キャリア英語科****ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）**

キャリア英語科は英語の学修をとおして、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。

その実現のために、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、協働して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。

**カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）**

キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、導入教育科目及び専門教育科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。

## 【教育内容】

- ① 学修の基礎となる導入教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。
- ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を実施し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。
- ③ 英語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。
- ④ 第2・第3外国語運用能力を育成し、多文化理解を深め、多角的な視点を大切にする。
- ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画内に実践する力、自らの考えを発信して他者と協働するための力、目標を達成する力を育成する。

## 【教育方法】



- ① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
- ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学習成果】

① 語学力の育成

大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。

② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力

英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の文化に精通するとともに、自らの文化を知り、世界に向けて発信することができる。

③ 世界が抱える諸問題の理解

英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

キャリア英語科では、卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② 語学の到達度を測る資格試験におけるスコア

**アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）**

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、キャリアを形成する上で十分な英語コミュニケーション力と、ビジネスの分野に必要な知識・技能を修得して、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- ② 英語の実践的な運用力の修得に意欲を持っている人
- ③ 幅広い知識とビジネススキルの修得に意欲を持っている人
- ④ 観光文化・観光ビジネスの分野に興味や関心を持っている人
- ⑤ 学力を活かして4年制大学に編入学を望む人
- ⑥ 英語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人





## 【京都外国語大学 学部学科の目的】

外国語学部	
専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域・文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
英米語学科	専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
スペイン語学科	専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
フランス語学科	専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ドイツ語学科	専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ブラジルポルトガル語学科	専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
中国語学科	専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
日本語学科	専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
イタリア語学科	専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。





ロシア語学科	専攻語としてロシア語の確かな運用力を備え、ロシア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
<b>国際貢献学部</b>	
世界で起きている事象を国民国家の枠組みを超えたグローバルな視点から捉え、「学問知」と「経験知」を総合した能力を修得して社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらすことによってグローバル社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。	
グローバルスタディーズ学科	地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、新たな価値を創造する人材を育成することを目的とする。
グローバル観光学科	観光に関するグローバルかつ総合的な観点から、様々な地域の課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。

### 【京都外国語大学大学院 外国語学研究科 課程の目的】

<b>前期課程</b>	
広い視野に立って精深な学識を授け、言語文化及び実践言語教育の専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化コース	英米、ヨーロッパ・ラテンアメリカ、東アジアの3地域を軸にした言語・文化の専門的知識や国際社会に貢献できる専門的能力を修得することを目的とする。
実践言語教育コース	創造的でかつ柔軟な対応力を備えた英語教育又は日本語教育のスペシャリストとしての能力を修得することを目的とする。
<b>後期課程</b>	
言語文化及び言語教育の専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を兼ね備えた人材の育成を目的とする。	
言語文化領域	最新の学術研究の探求を通じた言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力を修得することを目的とする。
言語教育領域	英語教育及び日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力を修得することを目的とする。

### 【京都外国語短期大学 学科の目的】

<b>キャリア英語科</b>	
アカデミックとビジネスの2つのコースを有することを活かし、実践的な英語力と国際活動に必要な教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
アカデミックコース	グローバル化時代の担い手として通用する発信型国際人に求められる能力を修得することを目的とする。
ビジネスコース	職場で働くための基本能力、表現力、社会人基礎力、国際人としての教養等を修得することを目的とする。